

枝川博士の第1回日本建築講座
「日本建築の特質そして創造性の根底にあるもの」
&神谷バーでランチ交流(OP)

2017年2月12日(日)実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

「枝川博士の日本建築講座」と題したシリーズ研修の第一回目を、2月12日9:30~12:00に台東区民会館9階特別会議室(中)にて実施しました。講師はJGA正会員にして一級建築士、さらに2016年に東京大学より「*Distinctive Features of Japanese Architecture and What Is at the Root of Japanese Creativity*」(英語論文)で博士号を授与された枝川裕一郎氏です。



参加者は47名(会員43名、非会員2名、運営委員2名)、ウェイティングも出るほどの人気で、日本建築への関心の高さが窺われます。

講義は、前半に日本人の創造性の特質として、次の6項目が挙げられ、各々わかりやすい例と共に説明を受けました。

- 1 自然との共生(例えば金沢の野村家と庭園。境界がなく、家と庭=自然が一体化)
- 2 素材に対するこだわり(その素材でなければならない特質を生かす、素材が主張)
- 3 装飾を排した簡索性(例えば伊勢神宮正殿、如庵、桂離宮、21世紀美術館)
- 4 木の匠と匠の技(さらに精神性。例として宮大工・西岡常一や隈研吾など)
- 5 二極性と多様性(平等院、中尊寺、金閣寺、待庵、日光東照宮、瑞鳳院)
- 6 並立共存の精神(「なんでもあり」、各々に名前をつけてしまえば全て正当化できる)

後半には、日本建築の構成(コンポジション)の特質として、やはり6項目について講義が続きまして。

- 1 非対称性(自然には対称性は少ない。対称性は自然をコントロールする力、権威の現れ。建物が対象の京都御所の紫宸殿は、前の植栽で非対称となる。)
- 2 建て増し文化(桂離宮、東大寺三月堂など)
- 3 小空間への傾注(小さな部分を作り込む、エネルギーを注ぎ込む。その効果)
- 4 有機的形態(伊藤豊雄のメディアテーク、岡山後楽園、牧野富太郎記念館、豊島など)
- 5 奥の概念(奥に行くほど格上、上級、大切。「奥」の演出:曲り角、高低差で景色を変える。)
- 6 全容を見せない(視界を遮る演出、その先への期待)

最後に質疑応答の時間を設け、盛況のうちに講義は終了しました。その後、オプションの食事会に移り、枝川博士と希望者は浅草の老舗「神谷バー」2階の「レストラン神谷」でランチと楽しい会話を共にし、充実した内容の第一回目の「枝川博士の日本建築講座」はお開きとなりました。(以上)